

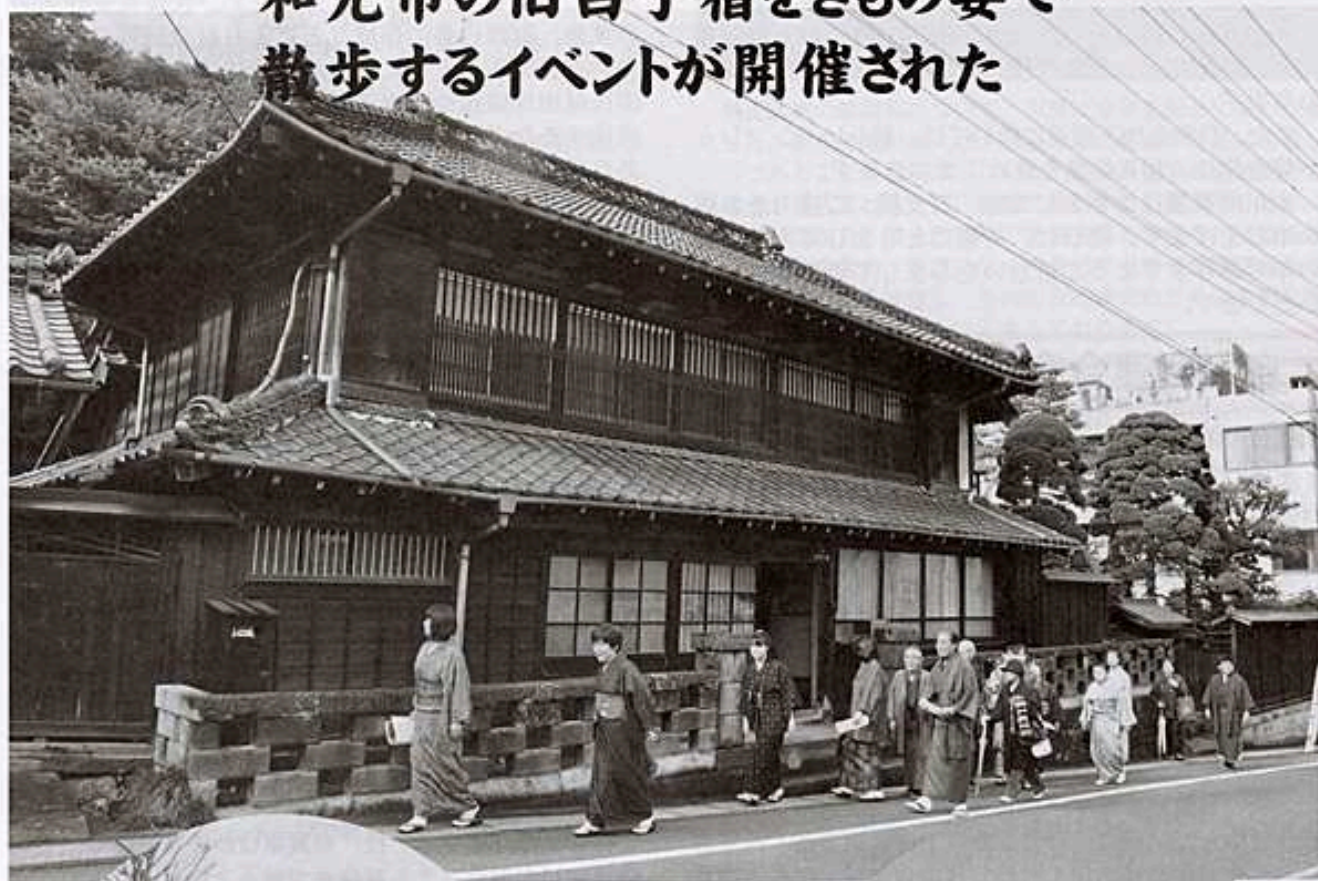
自治連わこう

平成23年2月1日

第8号

市制施行40周年記念事業、白子宿きもの散歩

和光市の旧白子宿をきもの姿で
散歩するイベントが開催された



消防団による分列行進

1月9日
消防出初め式



防災ヘリによる救出活動

謹賀新年



和光市自治会連合会
会長 浪間 貞

新年明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに平成23年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、自治会連合会の諸活動にご協力をいただき深く感謝いたします。

さて、本年も住み良いまちづくりを目指し、四つの重点目標を掲げ、活動を進めているところでございます。すなわち地域内の安心、安全のため防犯・防災の啓発に努め、それぞれの地域美化活動を推進し、また行政、各種団体等とのパートナーとしての意識を高め、自治会未加入世帯への加入に向けた積極的な啓発活動を推進する等でございます。

とくに、地域の安心安全対策については、自治会連合会が皆様の協力をいただき、市内一斉にパトロールを実施いたしました。今後も続けていきたいと思っております。

また、自治会加入促進については、新しいパンフレット等を作り、加入促進を進めてまいります。

本年度事業につきましても、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。結びに、皆様にとりまして本年も良い年でありますようご祈念いたしまして新年の挨拶いたします。



和光市長
松本 武洋

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春を迎えられ、謹んでお慶びを申し上げます。

和光市は本年4月から、第四次総合振興計画「みんなでつくる快適環境都市 わこう」の計画期間に入ります。この計画は埼玉県一の住宅都市を目指すための、今後10年間の市の最上位計画です。

本年は土地区画整理の推進、子ども医療費無料化の拡大、新保育園の開設、小学校新設準備などの未来投資、牛王山斜面林の整備などの環境対応に注力いたします。

一方、当市は厳しい経済状況の下、かつてない歳入不足に直面しております。このため、決算概要説明会の実施、財政白書の作成などにより財政情報の市民との共有を図るとともに、長年料金体系を維持してきた国民健康保険税や下水道料金、各種補助金の見直しを実施するなど、身の丈にあった行政へと舵を取りつつあります。もちろん、市としても事業見直しや効率化を図ってまいります。

本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会のますますのご発展と皆様方のご多幸をお祈りいたします。

自治会連合会視察研修報告

研修会報告 ヴィスタヒル自治会長 永田 義人

平成22年度和光市自治会連合会視察研修会が、10月18日(月)～19日(火)の一泊二日の年に1度の研修会が実施されました。目的地神奈川県横須賀市、町内会活動状況と特に今回のテーマは防犯、防災活動に関する意見交換でした。

参加者は、自治会長他総勢34名が和光市役所を7時35分出発外環経由首都高速、横浜横須賀道路経由で一路神奈川県横須賀市へ。近距離のことから11時チョット前に到着、研修は午後からの予定で、その間海軍軍港として記念館「三笠」を見学、昼食をとり、横須賀市役所での研修に臨んだ。西原連合会会長以下白岩副会長、西原副会長、加藤副会長に迎えられ、横須賀市民生活課の柳井さんの司会で横須賀市連合町内会の概要と特筆すべき事業の説明を受け、計画時間を大幅に過ぎた熱心な意見交換、質疑応答が行われました。

横須賀町内会・自治会数は26連合会のもと349、世帯数は152,827と和光市に比べ自治会数は約3.5倍、世帯数は約5倍の規模であるが、組織としては非常によくまとまり、活動もダイナミックな印象を受けた。横須賀市浦賀行政センター管内の浦賀連合町内会(17町内会、約10,140世帯)と鴨居地区連合町内会(17町内会、約8,410世帯)の防災活動で特に興味を惹き、当自治会でも実施したいと感じたのが、「命の灯台」と名づけた、災害時や救急搬送時等、緊急事態にそなえた緊急連絡先やかかりつけの医



療機関等を書いた家族の「安心カード」を入れたプラスチックボトルを冷蔵庫に保管することである。万が一の場合に緊急隊員や警察官、町内会長や民生委員等が冷蔵庫を探すと必要な情報をすばやく得られる宝物。冷蔵庫に保管するアイデアは、冷蔵庫は鉄の箱であり、災害時に家屋が倒壊しても最後まで残るというメリットがあるほか、事前に個人情報を提供しなくても、緊急時に備えることができる。また、警察や消防などの関係機関にもこの制度を周知することで、さまざまな角度から地域での見守り体制を確立することを目指しているとのこと。当該連合町内会では、配布対象世帯として①独居高齢者②高齢者夫婦③日昼独居の高齢者(同居者が昼間は働きにでかけているために、事実上、昼間一人になってしまう高齢者)、④障害者の世帯への配布。

(注)高齢者とは65歳以上想定だが、希望する世帯には可能な限り配布する。

研修効果に満足して4時過ぎに今回の宿泊場所、ホテル京急油壺観潮荘に向け出発、翌日、観音崎、横浜中華

街経由で和光市役所に帰着。連合会長以下研修を企画してくださった役員の皆様ありがとうございました。

● 研修会報告 ●

和光第八自治会長 本橋 良吾

平成22年度和光市自治会連合会視察研修会が、10月18日(月)から19日(火)の一泊二日に、神奈川県横須賀市町内会(自治会)と、町内会(自治会)活動状況(今回は、防犯・防災活動)について研修会が実施されました。

横須賀市連合町内会長等から同市の連合町内会・自治会活動状況と町内会・自治会に対する補助金制度の概要

(各地区連合町内会補助金、住民相互間の連絡網整備等)○青少年健全育成、非行防止のための年間活動費、年間を通じて行う文化活動や保健体育活動・高齢者と若い世代の交流活動など、地域・世代間交流活動に対する補助金○クリーン運動において地域住民への啓発及び清掃等の美化活動に対する補助○自主防災訓練報奨金などでした。また町内会・自治会に対する市の補助体制になった経緯については、当市の行政運営は町内会・自治会なくしては成り立ちません。それに答えるために真剣に取り組んでいきたいと説明がありました。計画時間を過ぎた熱心な交換会が行われました。

地区懇談会での意見・要望等に対するQ&A

※活発な意見・要望が出されましたが、紙面に制限があるため、一部割愛し掲載させていただきました。

道路行政について

Q南1丁目26番、歩道の安全対策を講じて欲しい

A歩道に設置されているポストコーン(オレンジ色)は、車の進入を防止するために設置されているもので、現状を精査し、対応してまいります。

Q駅前通り及び市内各公道の歩道上における雑草の管理について

A委託(年2回)の業者対応と職員管理として日常のパトロール、市民からの連絡等により除草を行っております。

市民生活について

Q「防犯灯又は街路灯」の市の対応及び担当所管の連絡について

A私道に市の補助金を利用して設置した「防犯灯」はくらし安全課が所管しており、維持管理につきましては、設置者(申請自治会や申請団体)が行うことになっております。

また、市が設置した「防犯灯・街路灯」は道路安全課が所管、維持管理をしております。なお、市で設置した防犯灯には市のプレートがついております。

Q引越しの粗大ゴミの不法投棄について

A引越しの際に出る粗大ゴミの中で、冷蔵庫、テレビ、パソコン、洗濯機、衣類乾燥機、エアコン6品目は家電リサイクル法の対象商品なので、各自メーカー等に引取ってもらるか専門業者に引取ってもらっております。

市でもパンフレットやホームページで啓発はしておりますが、粗大ゴミの不法投棄はなかなか無くなりません。粗大ゴミが集積所に不法投棄された場合は、資源リサイクル課(048-464-5300)までご連絡下さい。引越が多い時期を中心に再度広報、ホームページで啓発を図り、市民の方々に広く周知いたします。

Q防犯名簿の作成について

A現在、市の福祉部門におきまして「災害時要援護者名簿」の作成に向けて、対象者や登録方法等についての協議が進んでおります。名簿システム導入等、準備が整い次第、登録を開始する予定になっております。

なお、「災害時要援護者名簿」は、市が作成したものを各自治会と共有することも重要ですが、隣近所といった身近な生活範囲の中で高齢者等、援護が必要な方の存在を知ることが大切になりますので、一部の自治会で行っておりますが、自治会独自の名簿づくりもご検討いただければと思います。

環境問題について

Q路上喫煙禁止区域の拡大について

A路上喫煙防止条例につきましては、平成18年10月の条例施行以来、朝霞地区4市合同の取組みとして、喫煙防止及び



禁止区域の範囲等について、市民に定着を図ってまいりました。禁止地域の拡大は、禁止地域の範囲が市民に定着しつつあることや監視パトロール、周知看板等の設置費用の増大が見込まれるため、慎重に検討する必要があります。しかしながら、禁止区域外で散見される歩行中の喫煙行為への対応を含め、朝霞地区4市合同で現状の課題認識や今後のあり方等を検証し、条例の目的達成のため効果的な施策を展開してまいりたいと考えております。

Q路上喫煙禁止監視員の活動、私道について

A路上喫煙監視パトロールは、年末年始を除く毎日実施しておりますが、1日あたりおおよそ10件程度喫煙者に対する指導を行っております。ご指摘の件については、喫煙者との距離や角度あるいは人込みとの関係で、喫煙行為を発見できなかった可能性もありますが、今後より一層注意を払いながら監視活動を行うよう、委託業者に指導を徹底し生活環境の向上に努めてまいります。

その他

Q平成21年度後期地区懇談会の回答(平成22年6月22日付和市相第23号)で、整備・検討・対応してまいりますと回答していますが、具体的な期日等を示していただきたい。

(1)北口(いなげや付近)の歩道整備について

A駅前北口線については、駅北口土地区画整理事業地区内は、歩道4mを整備してまいります。いなげや付近の整備は、認可時の事業計画では概ね平成26年度から平成27年度を予定しておりますが、仮換地の指定も実施しておらず、建物移転対象も明確でないこと、また、移転協議の進捗状況によって施行時期も変わってまいります。今後、事業全体の詳細な施行計画を作成し、さらに施行時期の精度を高めたいと考えております。

(2)白子滝坂の道路状況が非常に悪いので、段差も生じて危険
Aコンクリート舗装のクラック部分と思われますので、歩行等の影響が及ぶ部分については、調査を行い年内に補修を行ってまいります。

(3)市の発注する道路・上下水道等の工事の際、事前に周辺自治会長宛、お知らせしてほしい

A自治会長様宛への工事関係通知につきましては、以前には、工事の内容に応じ、会長様へご通知申し上げるとともに会員の皆様方へのご協力を兼ね、回答等をお願いするかたちで、ご通知依頼を行っていた経緯がありましたが、必要ないという意見も出されていたことなどから現在の方法、当

該工事に影響するエリア(地域)のみの方々へご通知をしてまいりましたが、今回、連合会様より、改めて自治会長様宛へ工事のお知らせを頂きたいというご希望ですので、10月以降の契約工事から事業計画に基づく工事(緊急的工事を除く)につきましては、ご通知を差し上げる方向で進めてまいります。

なお、工事に関係するエリア(地域)の皆様方には、従来どおりの方法でご周知してまいりますので、ご理解願います。

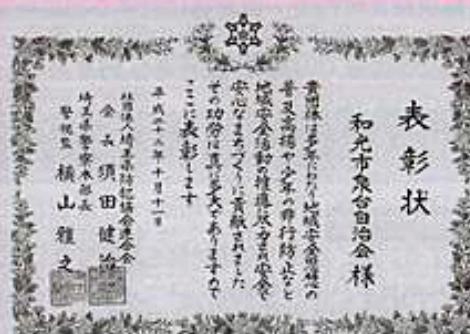
また、行政側の不徹底から今回のような状況におかれましてをお詫び申し上げますと併に、今後においても公共事業へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

自治会活動報告

埼玉県防犯協会連合会・埼玉県警察本部より、新倉北地区泉自治会が表彰を受ける

私達泉自治会は、平成17年から防犯パトロールを役員の方を中心とし始めました。毎月第2金曜日と第4金曜日の午後8時より約1時間6人から7人で拍子木を「かちかち」次に笛を「ピーピー」次に全員で「戸締まり用心、火の用心お気を付けてください」と掛け声して回ります。細い道私道などは行き止まり、又戻って来る道も入って行きます。地形的には坂が多く夏は高い場所は涼しく低いところに行くと背中から汗が流れ、又冬は反対に高い場所は風が強く震えるような事もあります。子供さん達が「御苦労様」と戸を開け、手を振ってくれると体が軽くなります。人に出会うと「おかえりなさい」とこちらから声を掛けます。

平成20年から新倉高齢者センターの方2名も必ず一緒に回っています。若い方なので掛け声も美しく私達いっしょにいても楽しくなります。地域の安全を考え、又自分達の運動心得にもなり、全員頑張ってパトロールをしています事を心から感謝しています。これからもずっと続けて行ける事を心から願っています。



泉自治会長 本多 好太郎

一新会自治会

自治会会員交流事業 11月13日

会長 磯崎 茂

我が一新会は和光市の東部に位置し南北1.5キロ東西500mの広範囲にあり会員630世帯で自治連加入自治会でも大世帯の部類にあり、さらに今後開発が進み増加傾向にある。今後の交流事業は大和中学校の学区内でもあることから同校の吹奏楽部の演奏を是非地元の皆さんに聴いて、観てもらいたいということから下新倉児童センター体育館に於いて開催し生徒と父兄、会員との有意義な交流会となりました。併せて親子揃っての防災訓練、炊き出し訓練、そして今や問題になっている振り込め詐欺について緊急朝霞警察署員による講話を聞き拡大した交流会となりました。尚開催にあたり一新会婦人会、一新友の会、育てる会、市役所くらし安全課、消防団本部分団、第二分団、更正保護女性会(一新会、睦会)の協力を得て価値ある交流会となりました。



自治会連合会で、一斉防犯パトロールを実施

12月22日(水)

防犯意識の高揚を図り、被害を受けにくい地域を共に守り、防犯の知識をもって、自らを守ることを念じながら、防犯パトロールを実施いたしました。和光市民が結集して防犯に努められますよう、自治会連合会がその礎となり礎となって行動いたします。(参加自治会 48自治会)



編集後記

昭和45年10月に和光市が誕生し、その年の12月に東武東上線の「大和町駅」も「和光市駅」に名称変更された和光市がスタートした。そして昨年の平成22年、和光市市政40周年を迎え数多くの記念事業が行われた。私が和光市に移って来ても30年も過ぎたが、来た当時の和光市駅はまだ木造駅舎で少々ビックリした思い出がある。それが今日は地下鉄有楽町線・副都心線の始発駅となりそのアクセスの素晴らしさに今昔の感がある。それに伴って都市化が進み、市の人口も大幅に増え、マンションやアパートも急増し、その人口構成も多様なものとなって来て、人と人との繋がりが地域との結びつきも薄くなって来ているのは否めない。市には3つの公民館や10のセンター(コミュニティ/地域)があり、この拠点を如何に有効に生かし地域コミュニティを図って行くかが、これからの各自治会やコミュニティ団体の大きな責務の一つかと考える。

編集委員 桐澤信男(グランヴィータ自治会)